

# ひいおばあちゃんのがお

一宮市立丹陽西小学校三年

杉山 すばる



ふくしについて、ほくはひいおばあちゃんのがおを見て気づいたことを書きたいと思います。

ひいおばあちゃんは、長野県の木曾町福島という山にかこまれた所にすんでいます。

夏休みに入り、ほくは九十三才になるひいおばあちゃんに会いに行きました。ひさしぶりに会うので少しきんちょうしました。けれど、ひいおばあちゃんは、しせつに通っていて、みんなといっしょに食事やうんどうをしている、という話を聞いていたので、まだまだ元気でいろいろな事を話してくれるんだらうなとわくわくしていました。

ひいおばあちゃんの家に着いて、

「木曾ばあちゃん、着いたよ。」

と、言っへやに入ると、ひいおばあちゃんはベッドによこになっていました。けれど、ほくの顔を見るとすくっとおき上がり、にっこりわらって、

「よく来たねえ。えらかった、えらかった。」

と、ほくの頭をなでてほめてくれました。ほくは、うれしくなってきた。ちようもふきとび、

「ほくは元気だったよ。木曾ばあちゃんは元気だった？しせつは楽しい？」

などと、たくさん聞いてみました。ひいおばあちゃんは、にっこりした

がら、  
「うん、うん。」

と、うなずいているだけだったけど、その顔を見ると楽しみながら通っているんだなと思いました。

はとこが来ていたので、いっしょにボールなげをして遊んでいると、ひいおばあちゃんは、こつちをむいてわらっていました。ふとほくは、ひいおばあちゃんにボールをパスしてみました。すると、思ったよりも上手にボールをうけとめ、いきおいよくほくにボールをなげ返してきたので、びっくりしました。ほくは、ボールなげができて楽しかっただけではなく、ひいおばあちゃんのがおを見ることが、とてもうれしかったです。

ほくは今まで、かいごやふくしと聞くとオムツを交かんしたり、きがえを手つだってもらおうというイメージでした。けれど、そばにいてちょっとしたあそびをしたり、お話をしたりしてわらい合いながら、ほんわかしたふんいきになるだけで、ひいおばあちゃんのようにえがおになって、元気のもとになるんじゃないかなと思いました。

何かをしてあげるだけでなく、いっしょに楽しむことが大切なんだ、と気づきました。

早くまた、ひいおばあちゃんのがおを見に行きたいです。

